

看護未来塾
COVID-19 感染拡大下における看護学教育の創意工夫から学んだ
これからの看護学教育への提言並びに要望

<趣旨>

COVID-19 の感染拡大でわが国の医療基盤のもろさが露呈したが、ハード面での諸施策に併行して医療従事者、なかでも看護職者を強く求める声が高まり、改めてその不足が問題になった。こうした事態からも、看護職者確保の基礎となる看護学教育の質・量ともに整備することの重要性は論をまたない。そこで、COVID-19 が感染拡大した昨年からの全国の看護系大学を始め看護教育機関が直面したことを踏まえて、ここに今後の看護学教育への提言並びに要望を行うものである。

対面による教育が困難となったのは一般大学と共通であるが、看護学教育の場合は看護実践能力を獲得するための臨地実習が欠かせない。だが、今回の事態により、臨地での実習は中止や縮小に追い込まれた。これは、看護学実習の多くを看護実践現場(医療機関等)に依存している体制の脆弱さを認識することにもなった。そのような状況にありながら、各看護系大学は看護学教育の質を担保するため新たな教育の方法を創意工夫し、学生の看護実践能力の獲得に支障が出ないよう、様々な取り組みを行ってきた。その中で、COVID-19 発生以前から行われてきた従来の教育方法、特に演習と臨地実習をさらに改善、発展させる方法について、われわれは多くの知見を得た（日本看護系大学協議会の調査報告等）。

今後 COVID-19 の感染が収束したとしても、グローバル化と地球温暖化による新興・再興感染症の発生や自然災害の多発なども予測されることから、どのような状況下においても必要な看護学教育、特に看護学実習が適切にかつ効果的に実施できるよう、今回の経験と得られた知見をもとに、次のような提言を行うものである。

記

1. 看護学実習の再構築の必要性

- 1) 実際の看護実践現場でしか学べないことは何か、臨地実習で獲得しうる能力は何かということを明確にし、臨地実習のあり方を抜本的に考え直す必要があること。
- 2) 現在のように看護学実習を専門分野別に細切れに実施するのではなく、臨地実習でしか修得できない能力の獲得を中心にした分野横断的な実習体制を構築する必要があること。
- 3) 実習単位に実習前の準備教育として、シミュレーション学習を組み込むことを可能にすることや、学内で実習の準備性を高めた上で臨地での実習に臨むことを前提とすることが重要であるため、実習単位の見直しも含めた検討が必要であること。
- 4) 今後の看護学実習においては、ICT を活用した遠隔実習といった新しい方法の創出を検討し、臨地実習として認めていく必要があること。
- 5) 3)・4) を実現していくためには、学内の教育環境を人と物の両面から整備する必要があること。

- 6) 臨地実習の目標を達成するための実習のあり方については地域の保健医療福祉体制や住民のニーズの相違を鑑み、大学の裁量に任せる仕組みが必要であること。

2. 感染看護学の基礎的教育を徹底する必要性

看護学は、感染症の予防、感染症患者の看護、感染拡大の防止等に関する知識と技術を蓄積し、発展させてきている。看護の基礎的な知識・技術である感染看護について、看護学の基礎教育の段階で徹底して教育することは、今後起こり得るいかなる感染症の発生に対しても適切に対応し、感染症予防の認識を持つ社会を作ることにつながる。そのためにも、感染管理や感染対策が十分に学べる実習室等の整備が必要である。

3. 感染看護学の教育・実践の専門家の育成を緊急に行う必要性

2019年4月時点で13の看護系大学院で感染症看護専門看護師を養成している。2021年1月29日現在、全国で90名の感染症看護専門看護師が活動しているが、47都道府県で感染症看護専門看護師が一人もいない県は29県と半分以上である。今回のようなパンデミックの状況に対処するためには、感染症看護学の専門知識と卓越した実践能力を有する感染症看護専門看護師の存在は極めて有用である。

以上のことを実現するために次のことを要望する。

<要望事項>

1. 2022年4月から適用予定の新カリキュラムの施行を1年遅らせ、特に感染看護学の強化と臨地実習のあり方について、今回のCOVID-19の経験や知見をもとに各看護学教育機関がカリキュラムを十分に再検討することができる時間を確保すること。
2. 感染看護学を専門とする教員及び感染看護専門看護師を緊急に育成するために、政府による奨学金等の財源的措置を講じること。
3. どのような状況下においても必要な看護学実習を行えるよう、学内に感染管理対策の技術学習やシミュレーション学習のための人的・物的教育環境の整備に対する予算措置を講じること。具体的には、看護系大学にシミュレーション実習室、あるいはシミュレーションセンターの設置が可能となる大型予算措置を望む。

以上

看護未来塾世話人代表

南裕子（神戸市看護大学学長）

看護未来塾世話人（五十音順）

秋元 典子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部教授・学部長）
阿保 順子（NPO 法人こころ理事長）
井上 智子（国立看護大学校長）
内布 敦子（兵庫県立大学理事 副学長）
内山 孝子（東京医療保健大学准教授）
太田喜久子（日本赤十字看護大学特任教授）
岡谷 恵子（NPO 法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会理事長）
片田 範子（関西医科大学看護学部教授・学部長）
川嶋みどり（日本赤十字看護大学名誉教授）
川原由佳里（日本赤十字看護大学教授）
小松 浩子（日本赤十字九州国際看護大学学長）
酒井 明子（福井大学医学部看護学科教授）
坂下 玲子（兵庫県立大学教授）
佐藤 紀子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授）
茂野香おる（淑徳大学看護栄養学部教授・学部長）
杉山 文乃（国立看護大学校准教授）
田村やよひ（国立看護大学校名誉教授）
中島紀恵子（北海道医療大学名誉教授）
中山 洋子（福島県立医科大学名誉教授）
野嶋佐由美（高知県立大学学長）
菱沼 典子（三重県立看護大学理事長・学長）
増野 園恵（兵庫県立大学地域ケア開発研究所教授）
宮城恵里子（前健和会臨床看護学研究所）
守田美奈子（日本赤十字看護大学学長）
森山美知子（広島大学大学院医系科学研究科成人看護開発学教授）
山本あい子（四天王寺大学看護学部長・看護学研究科長）
吉沢豊予子（東北大学大学院医学系研究科教授）

本提言並びに要望に関する連絡先 E-mail : office@kangomirai.com